

ちほめんNEWS

～金融機関向け知財ワークショップを開催！～

●はじめに●

昨今、経済のグローバル化や消費者ニーズの多様化により、知的財産の活用は、大企業に限らず中小企業においても、競争優位や独自性確保の観点で重要な課題となっています。

そこで、この度、近畿財務局において知的財産を考える金融機関向けワークショップ「知的財産をビジネスへ～中小企業支援のために何ができるか～」を令和元年9月20日に開催いたしました。

当日は、第一部・第二部合計で3時間にわたってワークショップを行い、会場は熱気に包まれました。

本企画の開催に至った経緯や当日の様様についてお伝えします。

●きっかけ●

今回の企画は、神戸財務事務所が日頃金融等に関して意見交換を行っている兵庫県中小企業団体中央会から、(一社)発明推進協会を紹介して頂いたことがきっかけでした。

(一社)発明推進協会から、「**知的財産の活用は中小企業においても重要な課題**であるが、中小企業は、自社が保有する知的財産を経営資産として十分に活用できていない」「金融機関においても、企業が持つ知的財産の価値や事業への貢献性を評価できる人材が必要」といった現状が聞かれました。

また、神戸財務事務所が昨年12月に実施した「新事業創業者と金融機関等との意見交換会」においても、**金融機関における事業性評価の難しさや人材育成の必要性が意見として出された**ところです。

そこで、(一社)発明推進協会から**金融機関とつながりを持つ当局に対して、金融機関向けにセミナーを開催できないか相談**があり、金融機関向けワークショップを開催することとなりました。



●企画の内容●

第一部は、(独)工業所有権情報・研修館近畿統括本部を講師・ファシリテーターとして、知的財産に関連したビジネス展開について、ケーススタディで検討するもの。

第二部は、近畿経済産業局が実施する知財ビジネスマッチング事業の受託企業を講師・ファシリテーターとして、個別の開放特許をテーマに、自由に新商品のアイデアを出し合うものです。

また、**本企画は、金融機関が事業性評価を実施するための能力向上につながる**ものであることから、兵庫県内の金融機関にとどまらず、近畿財務局理財部から、管内金融機関に広く参加を呼びかけることとしました。

さらに、取引先企業を念頭に置く金融機関のみならず、自由な発想で柔軟にアイデア出しを行うべく、近畿経済産業局、近畿財務局(ちほめん)もワークショップのメンバーとして参加することとしました。

企画のポイント

- 💡管内金融機関を対象に、知的財産をテーマとしたワークショップを開催し、**知的財産について考える機会**を提供。
- 💡ワークショップにはちほめんも参加し、**自由な発想で知的財産を活用した新商品開発のアイデア出し**等を実施。

●第一部ワークショップ●

冒頭、近畿財務局理財部長の樽川が「金融機関にとって、事業性評価や金融仲介機能の発揮という観点から知的財産の活用が有用だと考え、今回のセミナーを企画した。ワークショップ形式で実践的な知識を習得し、メンバー間での交流も深めてほしい」と挨拶を行いました。

そして、第一部ワークショップの開始です。第一部ワークショップには、金融機関職員15名のほか、ちほめん6名もメンバーとして参加。

第一部ということもあり、少し固めの雰囲気であったが、ファシリテーターが各グループのメンバーの意見を引き出し、徐々に白熱した議論が展開されていくこととなりました。

グループ発表では、ケース毎の原因分析や対応策等について、グループで出た意見が発表されたほか、金融機関での融資を想定した場合の検討結果等も発表されました。



(ケーススタディ例)ライセンス契約

中国での特許を取得した上で輸出を開始した照明器具メーカーA社は、中国のB社に請われて技術ライセンスを行った。しかし、一年後、B社がA社の技術を改良した特許を取得し、新製品を投入すると、A社の売上は減少。A社はB社に特許の使用権を求めたが、B社に断られてしまった。

⇒上記事例について、原因分析や対応策、自社で起こりうるケースの想定をグループで検討。

《各グループの発表意見(抜粋)》

- ・競合企業に対し、改良発明の対策を考えずに、ライセンス契約を安易に結んでしまったことが原因
- ・改良技術の権利の帰属について、進出先である中国の法令を把握すべきだった
- ・ライセンス契約を締結しない選択肢もあったのではないか

(出典)ケーススタディで学ぶ！グローバル知財マネジメント～海外に挑む中小企業の姿から～
https://www.inpit.go.jp/jinzai/global/global_material.html



● 第二部ワークショップ ●

続いて第二部ワークショップの開始です。第一部メンバーに加え、近畿経済産業局職員等6名が新たにワークショップに参加しました。

ワークショップでは、「他者のアイデアの批判禁止」「質より量」「常識を疑うバカらしいアイデア大歓迎」といった共通ルールや、グループごとに35個以上のアイデアを出すという目標が設定されたこともあり、**とめどなく溢れ出るアイデアが付せんに書かれ、模造紙に貼られていきました。**

その後、グループで出たアイデアについて、革新性、個性、共感性の観点から、メンバーが良いと思ったものに「イイね！」シールを貼り、グループの代表意見を決定。**提案ペーパーとともに、全体に向けて代表者が選りすぐりのアイデアを発表しました。**

また、**実際に取引先企業に提案できるように、講師・ファシリテーターが各グループの提案ペーパーを取りまとめ、後日還元されました。**



テーマ「印刷画像へのコード埋込技術」

印刷画像中に、画質劣化を抑えつつ、情報コードを埋め込み、読み取ることができる技術。動画再生も可能。「QRコード」と比較すると、QRコードを表示させるスペースが不要であり、画像のデザイン性も損なわないというメリットがある。

《各グループの発表意見(抜粋)》

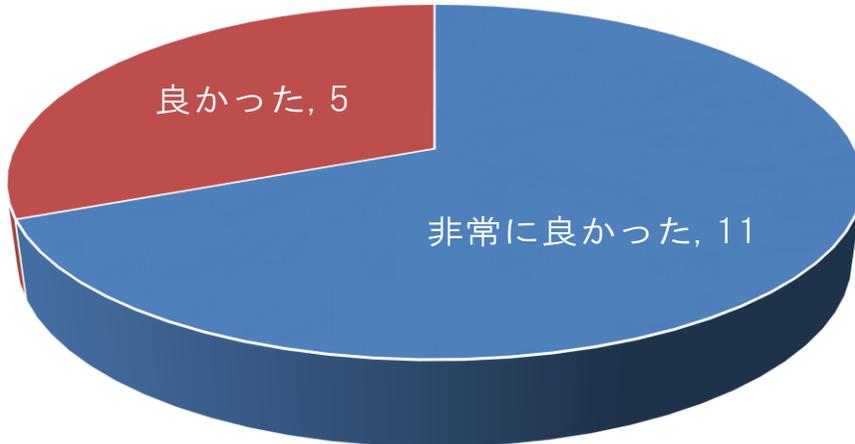
- ・テレビや雑誌で見かける服にコードを埋め込み、服に興味を持った人間がインターネット検索をできるようにする
- ・部品自体が作成手順を教えてくれる
- ・テーマパークでの宝探しに応用する
- ・ブランド品に埋め込むことでセキュリティ機能として活用する



●参加者の声●

- ・知的財産がビジネスにとって大変有益であることを再確認できた。
- ・従来の傍聴型ではなく、参加型で自ら体験できたことが有意義だった。
- ・現場でも実践できる有意義な意見が多く出された。
- ・単に知財保護でなかったことに驚くとともに、ワークショップが非常に楽しかった。

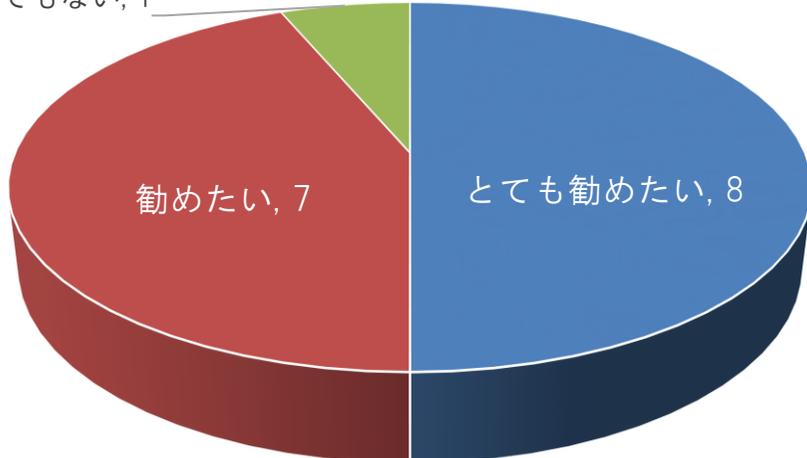
セミナーの満足度



- 非常に良かった
- 良かった
- 普通
- あまり良くなかった
- 良くなかった

セミナーのおすすめ度

どちらでもない, 1



- とても勧めたい
- 勧めたい
- どちらでもない
- あまり勧めたくない
- 勧めたくない

●さいごに●

今回、異なる組織の職員をシャッフルしてグループを組成し、ワークショップを行いました。グループのメンバーはほとんどが初対面であり、また、ちほめんもメンバーに入るなど、不安な点もありました。

しかし、セミナー実施後、参加者から「金融機関職員だけのワークショップでは意見が偏ることも多いが、本ワークショップでは行政職員からも有意義な意見が出された」との感想も聞かれ、関係者一同、大変嬉しく感じています。

本セミナーが契機となり、少しでも知的財産の活用が進めば幸いです。

今回の取組みでお世話になった皆様、誠にありがとうございました。



地域活性化に関する御要望がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

近畿財務局神戸財務事務所総務課企画係
078-391-6941

chihomen-koube@kk.lfb-mof.go.jp

近畿財務局総務課企画係
06-6949-6390

ちほめんNEWSのバックナンバーは以下のURLからご覧になれます。

<https://lfb.mof.go.jp/kinki/chiiki.html>